

架空非行

ヨメバヒコウニハシル

第1号

2014.08
今月のテーマ

なまえをつけること

最後の名前

初めて会った王子は優しい容姿だった。しかし、移住を認める代わりに娘を要求するような人なのだ。見た目通りではないはずだ。

「こちらへ」

王子は自分が座る長椅子の隣を示した。私はおぼろげと浅く腰掛ける。できるだけ距離を取った。

突然、手を引かれ、抱き寄せられる。何をされても驚かないと思っていたのに悲鳴をあげてしまったのは、

貴船にて

(松岡永子)

そして。たとえばトランプ占いをします。結果の出ない占いを延々とつづけながら、それを転がしてゆきます。最初はごくゆっくりと、徐々に力を込めて。はじめは直接手を触れることもできないと思うかもしれませんが、焦らずゆっくり、その名前を呼びつづけてみましょう。つづけるうちにそれから意味が抜け落ちてただの音になり、やがて意味のない音がバラバラと指の間から零れ落ちてゆきます。ここまでくれば大丈夫です。あなたがゆっくりと殺したその名前を掌にのせて指先で撫でてみましょう。もう、それを「恋」などと名付けても人畜無害です。

分が恥ずかしくなったよ。お友達の結婚式の祝儀袋、綺麗に名前が書きたくって、書けなくて。そんなことを真剣な顔で喋るあなた、なんの気負いもなく女の子なところは、子供の頃からまったく変わってない。『綺麗な文字が書けるようになりますように。』他愛のない願い事を、あなたは短冊に書き付ける。大きなバランス悪いかな。囁きを、水量を増した川の音が削り取っていく。川床が有名な旅館なんだけど、この分だとお天気に割を食って、奮発した甲斐がなかったかも。でも、ま、いいか。あなたとの旅行だもの、それだけで、価値は十分。

筆、使う？ 書き終わったあなたが言う。

書いてきたから、いい。私は答える。

幼なじみとはいえ、短冊に書いた願い事を見られるのは恥ずかしい。人を見ておいて、ずるいかな、とも思うけれど。

水性ボールペンで書いた文字は、きつと神社の笹に結んだ瞬間、雨に溶けてくれるだろう。水の神様だけに伝える、私の、希み。

痛いほど強い力だったからだ。

「離してください！」

私の訴えを無視して、王子は、「名は？ 何と呼ばれていた？」

動揺のせいでいつもの呼び名を口にしてしまう。商家の娘には相応しくない侮蔑を含んだ名前だった。私は本当は、替え玉にされた使用人なのだ。行き倒れていたところを拾ってくれたことには感謝しているが、商家での扱いは酷かった。

「何だ？」

王子の厳しい声を聞いて、失敗したことに今さら気付く。このために二ヶ月かけて肌や髪を整え、振る舞いも練習させられたのに。もちろん名前だって決めてあった。

予想に反して、王子は私の素性を質さなかった。

「違う名前が必要だな」

呼び名が変わることには何の感慨もなかった。主が変わるのだから鎖も変わるだろう。

けれど、直後に王子が告げた名前には心底驚いた。思わず顔を上げる。

「そなたたちが逃げ出してきた国の王女と同じ名前だ。王女は十年前、

私たちは旅館で傘を借りて、神社までの雨路をのぼった。坂道を波打ちながら流れていく水、暗い色のアスファルトに白い飛沫が散ってまるで星一杯の天ノ川。

織姫と彦星は一年に一度は会えるんだって。でも私たちはせいぜい、二年とか三年に一度、気が向いたときにどちらかが声をかけて、会って別れて、いずれ疎遠になって？ 幼なじみなんてレトロな看板、そろそろ下ろしてしまいたいよ。

けれど恋という名は随分昔にあなたに却下されてしまったし、友という名を、私はどうしても飲み下せないし。

無記名の関係性、そこに横たわる私の卑怯。

(あずみ)

次号予告

次号のリードライターは水砂糖さん、テーマは「涼しい言葉」です。残暑が親しげに訪ねてくる9月1日に発行予定。原稿募集の締め切りは8月20日。それでは皆様良い非行を。

(編集部一)

今月のゲスト

たなかなつみ(超短編や)超短編フリーペーパー『コトリの宮殿』にて超短編連作「いつかどこかのものがたり」連載中。

もっと知りたい↓



松岡永子

大阪在住。短いものをばつばつ書いています。

サイトは「キツネノマド」

もっと知りたい↓



あずみ

創作サークル「冬青」にて同人活動中。仄暗い雰囲気、うたのような文章の呼吸が特徴。

もっと知りたい↓



お父さんになまえをつける

あなたのお父さんは、立派なこどもを育てあげたことを認められ、晴れて名前を名乗れることになりました。名づけるのはあなたです。あなたは何を考えて名前をつけますか？

- A. 父のひどいセンスに合わせて
- B. 名前なんて記号だ
- C. 父の悲しさを思いつつ

選んでからページをめくって下さい。

るまで、長い年月がかかった。その間、肩書きは何度かわ変わったけれど、私の名前はずっと同じだった。

葉原あきよ

雑貨や豆本を作ったり、文章を書いたりしています。ウェブサイトはオレンジ宇宙工場 <http://oakyio.com>

詳細はこちら



A. 自分のセンスをおしつけないあなたには…

桜月集・たびわに

虚影庵

<http://store.retro-biz.com/pj824>

「ご主人さまのところにもらわれてきたのは、どのくらい前だったかなあ。あんまりはつきり言っちゃうとご主人さまのトシがばれて怒られそうだから、よく覚えてないってことにしとくけど。」

おいら、兄弟たちと一緒に、デパートのぬいぐるみ売り場にいたんだ。ワニのぬいぐるみなんてそんなに人気がないからね。可愛いネコやイヌのぬいぐるみがぼこぼこ売れてくのを、毎日いいなーってながめてたんだ。そしたら、ある日、ワニとかシー

ラカンスとか、マイナーな種類のぬいぐるみばかり見て回ってる人がいたんだ。それがご主人さまだった。売り場の人に嫌な顔をされるくらい長いことうろろしてから、ご主人さまはおいらを両手で持ち上げて、「うちのコになるかい？」って聞いてくれた。ワニでも気に入ってくれる人がいたのが嬉しくて、おいら、うんって思いつきうなずいた。

連れて帰ってもらったおうちには、やっぱりぬいぐるみの先輩がいっぱいいた。ご主人さまはぬいぐるみを

みんなおんなじように可愛がつくて、ぬいぐるみのご主人さまとしてはサイコーなんだ。

でも、ひとつだけ、ご主人さまには困ったことがあった。名前の付け方がものすごくダサイんだ。

続きはこちら



B. 名前に情を持ち込まないあなたには…

アイレクスの絵空事

青波零也

<http://store.retro-biz.com/pj2973>

「ホリイ・ガールランド」
それが、僕に与えられた名前。
「壁を越え、黄砂の海を越えた先に待つ《歌姫》の《種子》を塔まで護送せよ」

それが、僕に与えられた任務。
他に与えられたものは、兵隊であることを示す軍服、食糧と水をはじめとした旅に必要なもの、ナイフと銃、それと旧型の車が一つ。
ああ、それと仲間が一人。

隣でハンドルを握るのが、ブルージェイ。本当の名前は知らない。兵

隊になった理由も知らない。知る必要がない。僕が知っておくべきことは、彼女がブルージェイで、腕利きの銃士で、この任務の間は僕の相棒だということ。それだけ。
「しかし、今回の《種子》ってどんな子だろうな」
突然、そんなことを言い出したジェイに目を向けると、ジェイはだらしない笑顔を浮かべて既に心ここに在らずだった。

「可愛い系かな、綺麗系かな、性格はどうなんだろ。素直な子もいいて

ど、つんけんしてるのもそそれるよな。クール系？ 大和撫子系？ ああっ、夢が広がる！」

「ジェイはいつもそれだ」
「しばらく一緒に旅するんだ、ホリイも気になるだろ」

「僕の任務は《種子》を運ぶこと、プロファイルに…」

続きはこちら



C. 名前に悲哀を背負わせるあなたには…

錯乱せし群青・繚乱せし群青

加楽幽明

<http://store.retro-biz.com/pj1877>

その小鳥は自由気ままに、大空を飛び回っていた。否、小鳥は長い間探し続けていた。自らの羽を休めることのできる、止まり木を。それまで小鳥はずっと小鳥で在り続けた。姿は小鳥のままであるが、小鳥は少しずつ経験を重ねていく。次第に小鳥は自分が悲しい物語を欲していることに気付いた。まだ幼い双眸に映し出される悲劇を、小鳥は自らの羽の色よりも蒼く深い物語を探し求めた。

ある時、小鳥は盲目の少年の家で

飼われた。飼われたというのは、語弊があったかもしれない。小鳥は彼の家に棲みついた。少年は画家志望だった。不慮の事故により、彼の瞳は永遠に光を失ってしまう。その際に最愛の両親さえも、同時に亡くしてしまった。近所の老夫婦に実子のように可愛がられ、彼はこれまで何とか暮らしてこられたのだ。

小鳥が少年に興味を示したのは、その痛ましい境遇の為だけではなかった。小鳥は彼の画に魅せられていたのだ。彼が描き出す画は、深い深

続きはこちら



罪

またこんなにならかして、ってママが言うの。何回繰り返したらわかるの。どうしてお母さんの言うことが聞けないの。どうしてこんな子になっちゃったの。

ごめんなさい、ママ。あたし、いつもいつも夢中になっちゃうの。夢中になっちゃって、後のことなんか考えられなくなっちゃうの。ママがそれを見て怒ることとか、哀しむこととか、泣きわめくこととか、忘れ

ちゃんの。
ちゃんと考えなさい、ってママが言うの。どうして何回も同じことを繰り返すの。どうして何度同じことを言ってもやめられないの。やめなさいって言ったらやめなさい。

ごめんなさい、ママ。ママの言うことが聞えなくなっちゃうの。だって、ねえ、あたしのやっつてることは綺麗なことなの。とても綺麗な宝物を探すことなの。綺麗な子どもの胸のなかにはとても綺麗なモノがいっぱい詰まってるって、ママ、言っ

それは取扱注意の危険物です

好きな人物の名前を知りたいというのは当然の欲求ではありますが、それには格別の注意が必要です。思いがけず、あるいは周到な手段でそ

たでしょ？ あたしはそれを見つけないだけなの。見つけるためには開かないといけないでしょ？
だから、ママ、あたしがやっつてることを、そんなふうには呼ばないで。
(たなかみつみ)

れを手にしたときには、まず薄紙でくるんで外気に触れないようにし、それを緩衝材を詰めた箱(箱がなければ厚手の布に包んでもよい。その場合は持ち方に注意)に納めます。落とさぬよう揺らさぬよう気をつけて、かかえて帰ります。部屋にたどりついたら、ひとりであることを確認し、細心の注意を払って取り出します。このとき、照明は少し落とし、音楽をかけるのもいいでしょう。静かすぎるのはかえって落ち着かないためお勧めできません。